

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第3回松阪市教育ビジョン検討委員会
2. 開 催 日 時	令和2年12月17日(木) 午前10時10分～午前10時40分 午前11時00分～午前11時40分
3. 開 催 場 所	松阪市立松江幼稚園(松阪市川井町366番地1) 松阪市立松江小学校(松阪市川井町380番地1)
4. 出席者氏名	(委 員) ◎竹内委員、○松江委員、浅沼委員、小濱委員、 鈴木委員、村上委員、島津委員、齋藤委員、坂口委員、 瀬古委員、丸口委員 (◎委員長、○副委員長) (事務局) 鈴木事務局長、村田事務局次長、中西参事兼教育総務課長、谷中参事兼こども未来課長、尾崎学校支援課長、山口こども未来課担当監、小泉学校支援課担当監、小林教育総務課教育政策係主任、協葉学校支援課指導主事、中西学校支援課指導主事 (松江幼稚園) 古戸園長 (松江小学校) 中西校長、大西教諭
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0人
7. 担 当	松阪市殿町1315番地3 松阪市教育委員会事務局 教育総務課教育政策係 電 話 0598-53-4381 F A X 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- ・ 幼児期に育みたい力について
- ・ 今後の幼児教育や子育て支援に期待すること
- ・ 今後のグローバル教育に期待すること
- ・ 幼稚園、小学校、中学校の連携について

第3回 松阪市教育ビジョン検討委員会（学校訪問） 議事録

- 【日 時】 令和2年12月17日（木）
午前10時10分～午前10時40分
午前11時00分～午前11時40分
- 【場 所】 松阪市川井町366番地1 松阪市立松江幼稚園
松阪市川井町380番地1 松阪市立松江小学校
- 【出席者】 委 員：竹内委員、松江委員、浅沼委員、小濱委員、鈴木委員、村上委員、
島津委員、齋藤委員、坂口委員、瀬古委員、丸口委員
事 務 局：鈴木事務局長、村田事務局次長、中西参事兼教育総務課長、谷中
参事兼こども未来課長、尾崎参事兼学校支援課長、山口こども未
来課担当監、小泉学校支援課担当監、小林教育総務課教育政策係
主任、脇葉学校支援課指導主事、中西学校支援課指導主事
松江幼稚園：古戸園長
松江小学校：中西校長、大西教諭

《 松阪市立松江幼稚園 》

- （幼稚園 古戸園長からの説明）
（こども未来課 山口担当監からの説明）

○議題

- ・幼児期に育みたい力について
- ・今後の幼児教育や子育て支援に期待すること

委 員 三歳児の子がひとりで本を読んでいて、三歳児が字を読めるのかなと驚きました。幼稚園は最初の集団生活になるから、家庭とは違って自分の意思を言葉に出せないことばかりと聞きました。それが四歳児の子は先生に言われずとも自分の言葉でお誕生日おめでとうと自分の気持ちを伝えられるようになっていて、成長の過程が見られてよかった。幼稚園から英語ってどうするのかと思っていましたが、教えるというよりは、耳から聞いてゲーム感覚で英語に親しむという環境が良いと思いました。今日はそういう子どもたちの一年一年の成長を見ることができたので、充実した時間でした。

委 員 三歳児は集団生活がはじめてですので、まずは「幼稚園って楽しいな」「お友達と遊ぶの楽しいな」ということを知ってもらって、四歳児では自分の気持ちを自分で伝えて、五歳では30分ほど集中して英語で遊ぶという実践を見せていただきました。

幼稚園での遊びが学びになることや、子どもたちの心が動くことを通していろいろ学んでいってほしいなと思います。小学校での学習に向かう力を、遊びを通して基礎的な力をつけていただければと思います。

委員 地域の外部講師はどうやって見つけるのですか？ 地域の力をどういう風に園に入れてみえるのか。

幼稚園 松江幼稚園の園区には、松江小学校や幸小学校、第三小学校などがありますので、近隣の地域の方にご紹介していただくなどです。

委員 自然に楽しみながら英語に入っていけるので、遊びの中で学んでいける環境はともいいと思いました。また、幼稚園や保育園、地域の中で親と親をつなげることは必要だと思うので、幼稚園や保育園で親と親を繋げるような時間があったり、地域の中に自分を知っている人がたくさんできるような支援があったりすればいいと思いました。

委員 保護者の人もみんな働いているので、学校のボランティアでもおじいちゃんおばあちゃんが多い。保護者で関われる人をどう見つけるかっていうのも、教育委員会の手腕が問われるところです。

委員 紙ベースで学校から発信してもらっても、保護者は抵抗を感じてあまり人が集まらない。保護者同士で横の繋がりががあるので、声を掛け合っている。

《 松阪市立松江小学校 》

(松江小学校 中西校長からの説明)

(学校支援課 中西指導主事からの説明)

○議題

- ・今後のグローバル教育に期待すること
- ・幼稚園、小学校、中学校の連携について

委員 環境作りに力を入れてみえるのがよくわかります。

委員 幼稚園から小学校 1 年生まで成長していく、すごく先進的な授業をされていると思いました。文科省の方針としては日本人のディベート力が望まれるという方針が

あるようですが、そういった授業を通して力をつける人材がどんどん増えるといいと思いました。

委員 私も幼稚園の小さいころから遊びなどで英語に触れる環境というのは非常に素晴らしいと思います。幼稚園と保育園が連携を取っているということですが、松阪市の保育園でもそういうのをやっているですか。

事務局 公立保育園と認定保育園が21園、私立が15園ありますが、公立保育園ではそういうことはやっておりません。他の私立につきましてはそれぞれの方針となりますので導入されているかもしれませんが、一つ一つ把握はしていません。

委員 グローバル化を作っていこうとするとやはり英語力。我々のときの中学校の英語の授業というのは、喋ったりするのではなくて、単語を覚える何のおもしろみもありませんでしたが、今日見た授業は英語に親しむものですよばらしいと感じました。英語は世界共通の言語なので、そういうところをやる、やらないでは違います。日本人が世界でいろんなことをやるにあたっては英語が必要不可欠だと思いますので、ぜひとも小さいときから受けていただきたい。松江小学校以外の他の小学校でも追隨してやっていただきたいと切望します。

小学校 1・2年生が月2回、ふれあいという形で先生に来ていただいて英会話に親しんでいます。そうすると3年生になってはじめて外国語活動をしたときに、ずっと自然に入ってきます。先ほど言われたように幼いときは垣根がないです。心の垣根もないし、文化的な垣根もないです。音に関する感覚が非常に優れていますので、聞いたものがそのまま出る。大きな内容をなんとなく掴むことができる。私たち大人は、ちょっと分からないとそこにつまずいてなかなか先に行けなかったり、こだわってしまったりするところがあるのですが、小さい子たちはそういうところがなく、発達段階に応じて指導をしていくことで外国語活動に親しんでいきます。中学までの橋渡しになるような、自分の思いを伝えるとか、そういうことも3～6年生で取り組んでます。

委員 保・幼・小・中の繋がりも見せていただいて、子どもたちの良さを見つけたり、自然の良さを見つけたりしました。年長さんは小学校に入ると一番下になり、やっぱり小学校に繋がっていくので大事なことだと思っています。特別なことをするのではなくて、幼稚園と小学校の繋がりや学習の繋がりでもいいし、遊びの繋がりでもいい。人との出会いというのが大事だと思います。

委員 幼稚園の現場に行くというのはなかなかなく、私も久しぶりに幼稚園を見させていただいたのですが、年齢に合った指導の中で子どもたちが学んでいくという設定

がされていることを感じた一日でした。子どもたちは自然の中で学んでいくのですが、そこに先生の意図や目的があって、小学校の繋がりを意識されていると感じました。小学校に上がると生活が一変すると私も感じていて、四月当初は泣いている子どもたちもいて、こうやって意識してやっていることで子どもたちも勉強できる、できることも増えていくのかなと見させていただきました。学年も上がって3・4・5・6年生になると本当にレベルがじわじわ上がってきている。5・6年生は習った単語を発するのではなくて、自分の言葉で伝えたいことを習った単語を使って言っている。目的意識や世界に興味をもって「話したいな」「使いたいな」と思わないと子どもたちは成長していかないので、そう思わせるには私たちの教育がすごく大事なんだと思いましたし、子どもたちの未来につながる土台を作っていくことが大事だと感じました。

委員長 松江小学校でも英語の授業に関して、子どもたちに意識づけるために何かされていますか。

回答 英語は環境作りもありますし、担任の先生にいろいろしていただけてますが、日本語ばかりではなく「thank you」とか英語も織り交ぜて、先生がちょっと英語で投げかけたら子どもたちが英語で答える、みたいな、英語の授業2時間だけではなくて習ったことを日常に取り入れるということはやっています。

委員 みなさんもそうだと思いますが、語学力に非常に苦労した世代で、非常にそういう意味ですばらしい環境がどんどん確立しているのだと感銘を受けました。おそらくそういう努力をされているとか、もしくは実施されているということなのだと思います。けれども、なぜ英語を学ぶのか、学ぶことの良さ、そういうのをどんどん体験する機会を作ってあげることが大切だと思います。webの活用が中心になると思うのですが、海外の子どもたちとの交流の場ができれば、子どもたちもさらに楽しく、「友達も増えるだろう」と実感できるんじゃないかと思うので、そういったこともどんどん進めてほしいと思います。

委員 小学校を見せていただいたのですが、幼稚園から英語を親しんでいるということもあって、子どもたちが自然に自分のものになっているというか、一方的に聞くだけの授業ではなく、聞いたことを繰り返し自分の言葉で英語を活用してやり取りするというのが、身につく授業なのだなど。聞いたその場で自分の口で、自分の言葉で発して、意味を知って、その場でやり取りするのはいいことだと思いました。私も子ども時代に戻りたいくらい、いい授業。ああいうふうにしたら身につくのだなど思いました。

委員 自分が異文化を理解したということも大事なのですが、やはり共生することの方

が大事なのではないかと思う。いろんな文化があるので共に生きていくんだという思想がないと、英語とかいろんな努力をしても一番大事な部分が抜けていくのではないか。そして、小中連携というのは学校は忙しいので進みにくいと思いますが、英語を通して連携という一つのモデルになったと思います。防災教育など、保・幼・小・中、そして高校までの教育の連携を進めてほしい。

委員 幼稚園と小学校の連携が進められていると感じました。グローバル教育について、小学校で教えていただいたのですが、今の社会は僕たちが学んでいたとき以上に英語を学んでいて、松阪で成人になった子どもたちが英語を活用できる場ができているのだろうかということに対して、すごく心配になりました。

委員 グローバル教育が充実していると感じたのですが、これを広報して「松阪のここで学ばせたい」と思ってくれるような親世代が、どんどん松阪の校区に入ってきてくれれば、松阪も成長していけるのではないかと思います。松阪が先進的な教育をしているのだと広報する、松阪市のホームページにあげるとかご努力をしていただけるといいのかなと思います。